（別紙の2）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のフロア会議や日々の申し送りやミニミーティングの際、理念に基づいたケアが行えているか話し合っている。新人、中途採用者の職員研修において、理念について学ぶ機会を持ち、意識付けを行っている。	理念を言葉や行動の礎として支援に取り組んでいる。最後まで利用者や家族から「ここに居て良かったなぁ」と思っていただけるケアを目指し、日々の生活の中で具体的な支援に繋がるよう心掛けている。職員への意識づけも随時行われ、話し合いや研修を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市役所へ千羽鶴を届けた。常会に加入し回覧板を回していただいたり、三九郎や春の例大祭、夏祭りや運動会、文化祭などの地域行事に参加している。雑巾縫いを日頃から行い、幼稚園、保育園、小学校、中学校へ届けた。その雑巾を持ち小学生がお掃除交流に来てくれた。地域の方からお米や野菜・果物、タオルなどをいただいたりしている。買い物や散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、お花をいただいたりしている。夏休みには駐車場で小学生のラジオ体操が行われている。	区費を納め区の一員として情報を頂き、様々な行事に参加している。区の運動会では「こまくさ野村」の席まで用意していただき楽しんでいる。利用者による雑巾縫いでの地域の子供達との総合学習も続いて行われ楽しみの1つとなっている。フラダンス、マジック、尺八等、ボランティアの来訪も多くあり利用者との交流を図っている。駐車場で実施される夏休みの小学生ラジオ体操を利用者も楽しそうに見ている。日課の散歩でも地域の皆さんと顔見知りとなり利用者も挨拶を交わしながら楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習、福祉の職場体験事業、実習生の受け入れを積極的に行っている。施設長が松本広域連合介護認定審査会委員をやっていた。また、塩尻市医療介護連携推進協議会の委員を行っている。塩尻市立図書館の健康講座で講演した。塩筑・医療と介護ネットワーク研修会で2回講演した。こまくさ祭りで、地域の方々に向けた講演会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している。議題に合わせ地域の方々と防災や事故、犯罪また高齢者に向けたサービスなど様々な意見交換を行い、サービスの向上に努めている。前年度同様の出席者に加え、小学校のPTAや市役所の広丘支所長、福祉協力員、老人クラブ、介護ショップ、障害者就労支援施設職員にも参加して頂いた。	2ヶ月に1回、偶数月に開催している。通常の出席者に加え会議の議題に合わせてゲストに参加を依頼し実施している。警察署の方に参加をお願いし「防犯、特殊詐欺等」について話しをしていただくなど、その時に合ったテーマを必ず取り上げるようにしている。通り一遍な会議にならないよう、出席して良かったと思う会議となるよう工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が2～3ヶ月に一度来訪し、利用者や職員と交流を図っている。運営推進会議に出席していただき、グループホームの実情やケアの取り組み等を伝えている。認定更新や契約更新の機会に市町村担当者と連携を深めている。地域包括支援センターの職員が研修に来ている。	介護認定の更新は市より連絡があり調査員が来訪し家族立会いの上実施している。介護相談員も2～3ヶ月に1回来訪し利用者、職員と交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開いている。屋上やベランダに出て気分転換を図ったり、エレベーターで一階へ下り、新聞を取りに行く利用者もいる。身体拘束につながるケアを行っていないか、フロア会議やミーティングの際にケアの見直しを行っている。	ホームの方針として拘束を行うことはなく、日中玄関は開錠されている。離設傾向の強い利用者もいるが1階まで寄り添い降りたり、日々の散歩で気分転換を図っている。ベットも転落防止用の低床型が使われ、また、職員に寄り添われている利用者の姿を見ると拘束とは無関係で、職員への意識づけのための研修も定期的に行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	新人、中途採用者の職員研修において、高齢者虐待防止関連法について勉強会を行っている。虐待につながるようなケアが行われていないか、フロア会議やミーティングで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人、中途採用者の職員研修において、権利擁護に関する勉強会を行った。成年後見人制度のチラシを玄関に置き、家族等に情報提供している。日常生活自立支援事業(日常的金銭管理)を利用している利用者がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金、グループホームでの生活や医療連携体制、看取りなどについて詳しく説明を行い、利用者や家族の不安、疑問点を解消できるように努め、同意を得るようにしている。契約解除に際しても十分な説明と話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進会議や家族会などで利用者や家族の意見や要望を伺う機会を設け、そこで出された意見をフロア会議などで話し合い反映させている。家族来訪時には、現状報告をするとともに、ケアの方向性について、家族の思いなどを聞く機会として何でも言い易い関係作りに努めている。	利用者や家族の希望を取り入れた支援に取り組んでいる。家族の来訪は近隣にお住まいの方で月に1～2回ほどある。来訪時を大切にし様々な意見を頂くようにしている。細かなことでも気の付くことは電話で連絡を取り、近況報告などを行い家族との関係を深めるように努めている。家族会は2年に1回の実施であるが、誕生日会、こまくさ祭には家族を招待し、多くの方が来訪し楽しまれているという。お便り「あぜ道」を請求書に同封し家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やミーティングの中で意見や要望、提案を聞くようにし、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。個別に職員に声を掛け、話す機会を作り、業務上の相談等に対応している。オムツメーカーの検討をして頂き、パッドの変更をしていただいた。	月1回、19時30分から21時までフロア会議を行い様々な要望、提案が出され活発な意見交換の場となっている。欠席者にはフロアノートを回しホーム長が口頭で周知し、全員のコミュニケーションを図るようにしている。年1回自己評価が行われ、ホーム長経由で理事長に報告され一人ひとりに合わせた指導を行いキャリアアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来て、利用者と一緒に過ごしたり、個別に職員の業務や悩みを把握するように努めている。年に数回職員による自己評価を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修になるべく多くの職員が受講できるように情報を収集し、発信している。また参加した研修報告は法人リーダー会議で伝達講習し、研修報告書を全員が閲覧出来るようにしている。認知症介護実践リーダー研修に参加できた。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他施設実習を通して、他事業所と交流する機会を持ち、質の向上に励んでいる。法人内の別のグループホーム同士でも、リーダー会議や運営推進会議を通して情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時、利用者や家族と事前面談を行い、状態を把握するように努め要望や不安を理解し、安心していただけるよう努めている。利用者によっては入居予定日前にショートステイに訪問して、状態の把握に努め、安心していただけるように努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居前にグループホームの様子を見ていただきサービス利用状況や今までの家族の苦労などゆっくりとお聞きし理解した上で、入居されてからの不安や要望についてどのように対応できるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の相談時、本人や家族の状況をよく聞き、グループホームとして、どのような支援ができるか考え、必要に応じてケアマネージャーや地域包括支援センターに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、一緒に暮らす仲間として、喜びや楽しみ、不安や哀しみ、こだわりなどを共有し、支え合える関係作りに努めている。また畑仕事や煮物、漬物、裁縫、梅漬け、かりん漬け、干し柿作り、まゆ玉作りなど教えていただく機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談し支援の方法について共に考えている。誕生日会やこまくさ祭りに参加していただき家族が本人や他の利用者と関われる場面作りをしている。奥さんや娘さん、妹さんが誕生日会に出席したりした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、歯科や眼科に行かれたり、娘さんと温泉へ外出されたり、亡くなられた夫の月命日に出掛けたりしている。友人、知人、兄弟姉妹、親戚等の来訪や電話の取次ぎなど馴染みの関係が継続できるように支援している。デイサービスの利用者が訪ねてくることもある。	友人や知人の来訪が多くある。お茶とお菓子をお出しし居室で寛いでいただいている。中には介護認定に来訪した調査員が偶然「教員時代の教え子」ということもあり、親しく、懐かしく話をし楽しんだという。また、馴染みの方に電話をしたり、年賀状を出すなど、関係が継続するよう支援している。慣れた店に買い物に行きたいとの希望があれば職員が付き添い出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごせる場面作りや、一人ひとりが役割を持った活動を通して利用者が孤立せず、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	広報誌や写真を送ったり、車椅子や歩行器をいただいたりした。退所された方を訪ね、他施設へ面会に伺った。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表情や言動などから本人の思いや希望、意向を汲み取るように努めている。把握が困難な場合は一対一でゆっくり話を聞いたり、家族や入居前に利用していた事業所から情報を得て、本人本位の視点に立って検討している。	利用者全員が自分の思いを伝えることが出来る。利用者が「やさしくしてもらい、安心して生活している」と言っていたが、ホーム長初め職員の接し方を見ていると、その通り、一つの物事に対し一人ひとりに公平・丁寧に話し掛け笑顔で答えていた。この姿勢が当ホームの気持ちであり、大きな特徴となっているように思われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、個性や価値観、利用の経過等を本人、家族から詳しく話をお聞きし、情報を得るようにしている。また他事業所利用時の様子などを教えてもらえるように連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや暮らし方の把握に努めている。日々の支援からその方が今できることに注目し、一人ひとりの有する力の把握に努めている。また、重度化しても、出来る事に注目し、体調を見て手伝っていただくようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で思いや要望を聞き、介護計画に反映するようにしている。またフロア会議や日々のミーティングの中でモニタリングやカンファレンスを行っている。状態が変化した場合は検討し変更できるように努めている。	職員は1～3名の利用者を担当している。計画作成担当者はホーム長が兼ねており、フロア会議や日々のミーティング等で話し合いが持たれ、モニタリングも行い3ヶ月に1回見直しをしている。状態に変化が無ければ継続し、変化があれば本人や家族の要望を聞き検討後、計画を新たに作成しそれに沿った支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等身体状況や日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード、職員の気づき等を記録している。出勤時に記録を確認し、情報を共有している。個別の記録をもとに介護計画の評価、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎、個別的な買い物の支援など必要な支援を柔軟に対応し個々の満足を高めるように努力している。家族がグループホームで一日過ごされ、一緒に看取りの時間を過ごした。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らし続けられるよう、警察、消防、教育機関、民生児童委員、近隣スーパーマーケット、薬局、地域包括支援センター、地域住民、老人クラブ、介護ショップ、障害者就労支援施設の方々などに運営推進会議へ出席していただき、意見交換、協力関係を築いている。こまくさ祭りや行事の際に地域のボランティアの協力を得ている。本人の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、全ての利用者が法人内のクリニックをかかりつけ医としている。必要時に連絡をとりあい、看護師が状態を診にきてくれることもある。歯科医、眼科医などの受診は家族同行が基本だが、不可能な場合、職員が代行している。歯科医が往診に来ることもある。	利用者の希望で全員法人のクリニックをかかりつけ医としている。月に1回の定期受診を行い、日々の申し送りで状況を記入し主治医にも報告している。また、法人の24時間対応の看護師が週3～4回来訪し状況を把握しており、法人内で連携を取りながら健康管理を行っている。歯科医については協力医を利用し往診も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常を見逃さないように努めている。体調や表情の変化等で気付いたことがあれば、速やかに看護師に報告し適切な医療に繋げている。24時間いつでも看護師に相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年１名の利用者が入院された。入院された場合、利用者の情報などを医療機関に提出し、職員も見舞いに伺うようにしている。ご家族とも早期退院に向け、相談や話し合いを行い退院後のケア方針について話し合った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早い段階から医師と家族の面談の機会を設けている。本人、家族の意向を伺い、最期の時をその人らしく過ごしていただけるよう、医師、看護師、介護員で話し合い連携を図り対応している。開設以来12名の方をホームで家族と共に看取る事例を経験した。重度化や終末期ケアは大変難しくさらに学んでいきたい。看取りを経験するたびに、多くのことを学ばせていただいている。	開設以来多くのことを学びながら12名の利用者をお送りした。本人や家族の意向を伺い、「安心して最期までいられるケア」、「最期までここに居て良かったと思われるホームで在りたい」という思いを強く持ち終末期支援に取り組んでいる。そのような状況を迎えた時には家族、医師、看護師、職員間で早めの話し合いを行い方針を決め、準備を整えそれに沿った支援をチームとして進めている。親しんで来たスタッフの皆さんと最期の時が迎えられたと家族から感謝の言葉も頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人、中途採用者の職員研修において、急変や事故発生時の対応について研修を行っている。フロア会議やミーティングの場で、実際に起きた事故の対応や予測される事故、急変についての対応を検討し現場での実践につなげるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を年2～3回行っている。日中を想定した避難訓練では、近隣住民、民生委員、消防署の協力を得て消火器と散水栓を用いた初期消火訓練を行った。	年2回防災避難訓練を実施している。夜間想定として利用者も参加しベランダに避難をしている。日中想定では消防署の参加も得て消火器使用訓練、放水訓練も行われ、通報、緊急連絡網等の確認も行われている。地域住民の参加もいただき連携強化を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重しながら、職員は人生の先輩として尊敬する姿勢を持って接している。さりげないケアを心掛けたり、慣れ合いのケアにならないよう気を付けたり、自己決定しやすい声掛けをするように努めている。個人指導やフロア会議などの場で利用者の尊厳や個人情報保護の理解の向上に努めている。	声がけは人生の先輩として尊敬の念を込め「さん」付けでお呼びしている。居室に入る時、トイレにお連れする時等、細かい気づかいと言葉遣いに気をつけるようにしている。上に立つ者の考え方や振る舞いを周りは見ているとホーム長からも話があり、利用者一人ひとりに細かく声掛けし失礼のないように接している。ホーム職員のプライバシー保護についての理解度も高く利用者と同じ目線でケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて声掛け、答えやすく選びやすいような支援をしている。些細なことでも自分で決める場面作りを心掛けている。表現が困難な方に対しては、表情や行動などから本人の意向を汲み取り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切にし、その日その時の気持ちを尊重し、その人らしく生活ができるよう支援している。また本人のサインを読み取り、休息場面を作るなど個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、その方が好きな色や形の服を選んでいただいている。その方が馴染んだ髪型やお化粧ができるように支援している。帽子やスカーフ、手袋などその方の個性に添った支援を心掛けている。家族と馴染みの床屋や美容院へ出掛け、お気に入りの髪型にカットしたり、パーマをかけたりしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで出来る範囲で役割を持ち、職員と一緒に楽しみながら行っている。ホームのバルコニーでホットプレートを使い焼肉会を行ったり、新年会で手巻き寿司を行った。畑で収穫された野菜などで、煮物や漬物を調理したり、利用者の馴染みの料理や好きな料理を作り、個々の力を活かしながら楽しみとなるよう努めている。誕生日会では、本人の希望のメニューを調理しお祝いしている。1名の利用者が、毎晩晩酌を楽しんでいる。	利用者全員が自力で食事ができ、常食の方が三分の二、ソフト食の方が三分の一という状況である。献立は栄養士が立て、副食のみ委託業者が行い、主食、汁物、おやつについてはホームで作り利用者も準備から片付けまで職員と話をしながら楽しそうに行っていた。食事委員会があり希望のものを取り入れたり、誕生日には特別食として該当者の好きなものをお出しし家族も一緒にお祝いしている。野菜はホームの畑で収穫したものや沢山の近隣からの差し入れを料理に活用している。秋には大根や野沢菜などを漬け味を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を利用し、水分量、食事量の把握をしている。個別に高カロリー補助食品を提供しているが、これだけに頼らず、一人ひとりの嗜好や食事形態をソフト食にするなどして提供している。月一回栄養士が訪問し、一緒に食事をしながらアドバイスを受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた対応を行っている。特に就寝前の口腔ケアはその重要性を理解した上で確実に行っていただけるように支援している。利用者によっては、スポンジやガーゼなどを使用し、毎食後の口腔ケアを行っていた。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、身体機能に応じて、その方に合った排泄ケアを行っている。自尊心や羞恥心に配慮し、さりげない声掛けや誘導を心掛け、トイレでの排泄を大切にした支援を行っている。本人の状態に合わせて、パンツやパッドの種類の検討を行っている。ケアアドバイザーの方に困っていることなどを相談して解決している。	自立の方、全介助の方がほぼ半数ほどで、布パンツの方、リハビリパンツとパット使用の方もそれぞれ半数ほどという状況である。トイレでの排泄を大切にし、ケアアドバイザーの助言も頂きながら利用者の思いに沿った声掛けを行い気持ち良く生活出来るよう取り組んでいる。食事の前後や寝る前、また、随時本人の意思を読み取り声掛け誘導を行っている。夜間介助を必要とする方、ポータブルトイレ使用の方がそれぞれ数名ずつおり一人ひとりに合わせ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、便秘の方にはおやつ等で食物繊維の多い物、乳製品等を摂っていただくよう工夫している。また腸の働きを良くするため、マッサージやカイロ、毎日の散歩や体操、階段昇り等体を動かす場面を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認し、できるだけ利用者の希望に添った支援を行っている。入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応を工夫し、利用者一人ひとりに合わせた入浴を心掛けている。入浴を楽しめるようにゆず湯や菖蒲湯を行ったり、入浴剤を使用している。	少なくとも週2回は入浴するよう心掛けている。希望があれば3回以上入浴する場合もある。見守りでの自力の方、一部介助の方、全介助の方がそれぞれ数名ずついる。入浴拒否の方も数名いるが職員を変えたり、流れの中でタイミングを見て対応し入浴していただいている。入浴剤で香りを楽しみ、ゆず湯、菖蒲湯、かりん湯等、季節のお風呂も行っている。家族と泊りで温泉に行かれた利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中散歩に出掛け日光を浴び、午後は体操などを行い生活リズムを整え、夜間の安眠につなげられるよう心掛けている。ラジオを付け休まれている方もいる。眠れない方には、会話をしたり、温かい飲み物をお出ししている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬ファイルを作成し、全職員が把握できるようにしている。服薬は個別に対応し、内服できているか確認している。処方の変更や追加があった場合は申し送りノートや個人記録に記録したり、ミーティングで話し合ったりして状態変化の観察に努めている。フロア会議などで薬に対する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、ご飯や汁物の盛り付け、新聞たたみ、刺し子、雑巾縫い、花の苗植え、水やり、編み物、掃除など得意なことや利用者の経験や知恵を発揮できる場面を多く作り、その都度感謝の言葉を伝えるようにしている。行事や外出、誕生日会など利用者と相談しながら計画している。新聞を取っている利用者もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周囲や畑への散歩は午前中の日課になっている。近所のスーパーや薬局などへも積極的に外出している。初詣、花見、薔薇園やあじさい観賞、葡萄狩り、紅葉狩り等へも出掛け、四季を感じていただけるようにしている。	自力歩行の方は若干名で、歩行器や車イス、付き添い歩行の方がそれぞれ数名ずつという状況である。日常的にはホームの回りと、近くの公園への散歩を日課としている。歩くことが大切と考え「足元をよく見て歩く」ことを心がけながら散歩している。年間では花見、紅葉狩りなど、様々な場所に出掛けているが、今年は初めて県護国神社へ初詣に出掛けたという。1ヶ月に1～2回は外出しているが、ホームの今年の目標として「今まで行ったことのない所に行く」ことを掲げており、利用者への思いと優しさが感じられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、個人の財布を持っている利用者もおり、買い物に出掛けた際、飴や菓子、化粧品などちょっとした買い物を楽しんでいる。施設でお金を管理している方でも、代金を直接支払ったりすることで安心感や満足感が得られるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で、本人が家族へ電話を掛けたり、家族からの電話を取り次いだり、プライバシーに配慮しながら個別に対応している。友人・知人に年賀状を出している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての馴染みの物、生活感や季節感のある物を配置し、家庭的な雰囲気作りに努めている。刺し子や絵など利用者の作品を飾ったり、季節にあった花を飾るなどして、居心地の良い家庭的な雰囲気作りに努めている。	エレベーターを降りて廊下を歩くと数多くの観葉植物が置かれ家庭的な感じがする。北側のドアを出ると大きなベランダがあり気持ちが良く、天気の良い日には体操をしたり、焼き肉会等を行い楽しんでいる。共用部分は食堂、ソファー、畳部分と利用者が寛ぐスペースが充分確保されている。壁には利用者の押絵や掛け軸等の作品が数多く飾られている。訪問した日は「喫茶の日」で1階ホールにてコーヒーや紅茶を全員で楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファー、畳スペースには炬燵があり、気の合った利用者同士が座って話ができたり、休みたいときには横になったりできる場所となっている。廊下や屋上には椅子を置き、景色を眺めたり、一人で過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビ、寝具など好みの物を自由に持ち込んでいただいている。家族の写真や利用者が作った作品や鉢植えが飾られ、利用者一人ひとりの居心地の良い空間となるよう努めている。	各居室はすべて南側に配置され日当たりが良く利用者も喜ばれている。低床型ベットと洗面台が設置され居住性の良さが感じられた。誕生日に頂いた家族からのプレゼントや写真の数々、ご自分の作品、鉢花等好みの物を周りに置き、ゆったりと思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、表示やL字バー、ポータブルトイレなど安全に安心して暮らせるように環境整備に努めている。利用者の状態の変化により、混乱されたり、失敗が生じた時には、その原因を職員間で話し合い、本人の出来る力、分かる力に合わせた環境作りに努めている。		